スマイル

令和6年3月号
Vol. 57

医療法人 清梁会
高梁中央病院
〒716-0033
岡山県高梁市南町53
ＴＥＬ(0866)22-3636　ＦＡＸ(0866)22-0536
http://seiryoukai.jp/takahashi

◆社会保険ボウリング大会

昨年末、当院は社会保険ボウリング大会において地区大会を勝ち抜き、一月八日に岡山の県大会に出場しました。県内の各企業から多くの参加者が集まり、総勢一〇四名という大規模な大会でした。

各チームにより非常にハイレベルな戦いが繰り広げられ、結果として当院は上位に入ることは出来ませんでしたが、メンバー全員が県大会という真剣な空気の中、充実した一日を過ごすことが出来ました。

また、今回のボウリング大会はスポーツを通じて多くの方々との親交を深める非常に良い機会となりました。ボウリングに限らず、マラソンや自転車などの地域のスポーツイベントは職員同士や地域の方々との大切な交流の場です。地域に根ざした医療機関として、今後も積極的に参加し取り組んでいきたいと思っています。

次回の大会に向けては、より一層技術の向上と団結力の強化を目指していきたいです。

◆Ｖｓｃａｎ Ａｉｒ ＳＬを導入しました

今年度、当院ではワイヤレスポータブル超音波機器ＶｓｃａｎＡｉｒＳＬを導入しました。

ワイヤレスポータブル
超音波機器　Vscan air SL

この装置は本体サイズがスマートフォンと同程度で白衣のポケットに収まる大きさとなっています。さらに、これまでの製品と違ってスマートフォンやタブレット端末がモニターになることから、別途大きなモニターを持ち運ぶ必要がありません。また、本体とモバイル端末の接続がＷｉ-ＦｉとＢｌｕｅｔｏｏｔｈによる完全ワイヤレス方式であり、充電もワイヤレスであることから、ケーブルを挿す煩わしさやケーブルが劣化することもありません。

検査に関しては、心臓、腹部、産婦人科、肺、血管、筋骨格系、体表、神経などの検査が可能です。また、パルスドプラとＭモードを搭載しており、心不全や動脈硬化などの血流情報の定量評価や特定部位の弁や心臓の筋肉の動きの評価が行え、プローブ１本で深部から浅部まで全身の検査を網羅し、さらにＷｉ-Ｆｉ環境下でも安全にデータを送信し、スムーズな画像共有が出来るようになっています。そのため、訪問診療や救急、手術室、ＰＯＣＵＳ、病棟、災害現場など様々なシーンで聴診器のように場所を問わず正確・迅速な診断が可能です。

◆就職フェアに参加して

一月二十三日（高梁国際ホテル）、一月二十四日（サンロード吉備路）に開催された高梁市・総社市合同就職フェア二〇二四に参加しました。

近年の高梁市の人口減少に伴い、各事業所は人員不足が課題となっています。当院もその中の一つであり、医師や看護師以外の職種も不足しています。人員の不足は現場の疲弊の原因ともなるので、今回の就職フェアが一人でも多くの職員採用に繋がるよう参加しました。

高梁市、総社市から三〇もの事業所が参加し、数名の方が当院ブースに来られました。寄ってもらった方々の希望職種は看護師、看護補助者、調理職、病棟クラークなどでした。就職に結びつくよう今後も努力していきたいと思います。

当院に就職してもらうことも必要ですが、定着し長く働いてもらうことも重要です。これからも積極的に参加し、当院の魅力を引き続きアピールしていきたいと考えています。

◆消火・避難訓練の実施

二月一九日（月）に消火・避難訓練を行いました。

本来であれば、新入職員を中心に消防署からお借りした訓練用消火器を使い、水噴射にて初期消火を行う予定でしたが、当日が生憎の雨だったため室内で机上訓練を行いました。

消火器は普段使うことが無い為、実際に使用するときには使い方が分からず、慌てたり、躊躇する場合があります。今回の訓練ではどうすれば安全に消火器を使用することが出来るのか、どのような火事に対して消火器が有効かなどを学びました。そして院内の患者さんの避難を想定し、簡易担架の使用方法の説明も受けました。実際に簡易担架で人の持ち上げ方、運び方などを参加職員が順番に体験しました。

災害時に少しでも慌てずに多くの命を守れるよう、今回のような研修を今後も続けていきたいと考えています。

■能登半島地震における当院DMATの活動

令和６年元旦に石川県能登半島を中心に起こった能登半島地震。未だに避難所生活やご自宅で不自由な生活を送られている方も多く、連日ニュースで報道され、悲惨な現状を目にすることも多かったと思います。発災からほどなく各県から現地へDMAT(災害派遣医療チーム）が派遣されており、当院も１月１０日に岡山県から出動要請を受け、１月２５日に病院を出発し１月２６日～１月２９日の４日間活動しました。当時の能登半島は積雪もあり高速道路も通行止めの区間が多く、宿泊先のホテルまで半日以上かかりました。翌早朝にホテルを出発し、活動本部がある能登町役場へ向かう途中にも被災した家屋や亀裂の入った道路が多く見受けられ、被害の大きさを感じました。到着した能登地域は電気、通信回線は使用できましたが断水となっていました。

当院は能登町保健医療福祉調整本部の指示により高齢者施設の支援活動を行いました。被災の状況により少人数の職員で入所者の方に対処しなければならない状態が続いており、先発DMATから引き継ぎ診療回診、食事介助、清拭などの介護サポートを行いました。活動期間中は宿泊予定のホテルに帰ることができず、食事は持参した災害食やレトルト食品などで済ませ、寝袋で役場のロビーに泊まることもありました。１月２９日に後発DMATに引き継ぎを行い、能登での活動を終了しました。

今回に限らずですが、支援される側からDMATの介入をあまり良く思われていないといった声を聞くことがあります。支援される側の施設や病院のルール、やり方、職員間や利用者との関係性や思いを第一に尊重し、「支援に来てやった」ではなく「させていただく」という思いを持って活動し、受援側と良好な関係を築くことが大切だと感じました。

今後予想される南海トラフ地震や、大規模災害に迅速に柔軟に対応できる様、院内や関係機関と合同で訓練を行い、高梁新見医療圏災害拠点病院としての役割を果たしていきたいと思います。

■活動経過

１月２５日　高梁中央病院を出発　宿泊先である高岡市のホテルに到着

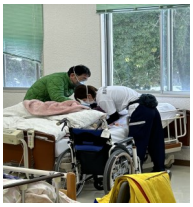
１月２６日　能登町役場へ到着　先発DMATから引き継ぎ、高齢者施設での支援活動開始

１月２７日　高齢者施設での支援活動（診療支援、介護サポートなど）

１月２８日　高齢者施設での支援活動（診療支援、介護サポートなど）

１月２９日　高齢者施設での支援活動　終了後に後発DMATへ引き継ぎ　活動終了

１月３０日　高岡市のホテル出発　帰院



■今回のDMAT構成

医師１名、看護師２名、業務調整員３名（作業療法士１名、臨床検査技師１名、臨床工学技士1名）の計6名